

# 世界に発信する21世紀型リベラルアーツ

2008年4月から文理融合リベラルアーツが始まりました。

私たちが学ぶ知識は、専門的でないと役にたちませんし、同時に国や文化が違う相手にも伝える必要があります。

グローバル化時代の現代では、高度な専門教育を支えこれを使いこなすために、発信・交渉能力、領域横断的な視野、変化に対応する判断力を養う必要があります。知識そのものの基礎であり、生涯をとおして、「自在に(リベラル)つかえる技(アーツ)」を学ぶことが、「21世紀型リベラルアーツ」の目的です。

## 現代世界の鍵となる5つのテーマ

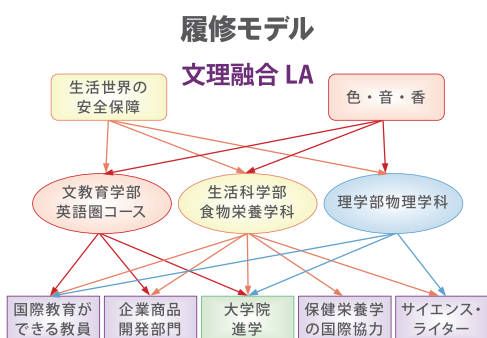
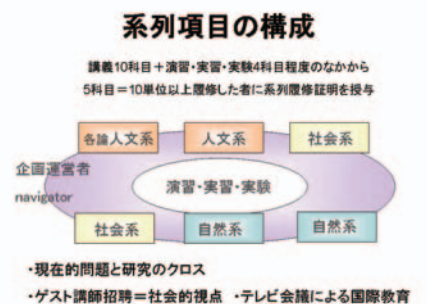
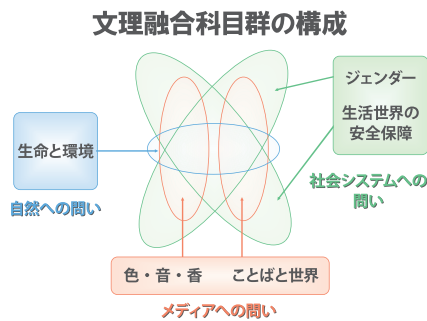
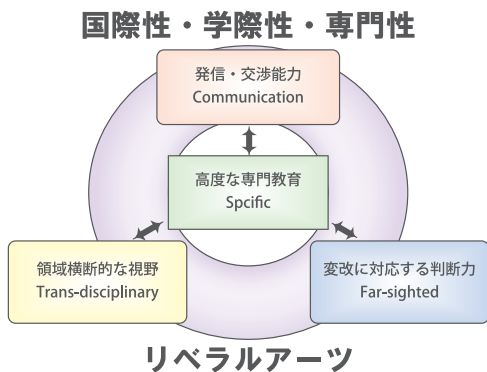
新プログラム「文理融合リベラルアーツ」では、文系理系にまたがる5つのテーマ(生活世界の安全保障、色・音・香、生命と環境、ことばと世界、ジェンダー)にそって、講義・討論・発表・実験実習・演習を組み合わせた系列科目群をつくり、自然・人文・社会の3つの角度から多面的に学びます。演習・実験・実習を通して、読み・聞き・書き・語り・作るという5つの能力を養成します。演習では、テーマに関連するテキスト(書物や論文)を読み、発表・討論し、レポートを書くことで、読解力や表現力を高めます。「生命と環境」や「色・音・香」では、海の生物を採集し観察する実験や色や香りを分析する実験を行うことで、自然の仕組みを体感します。「生活世界の安全保障」では、NPOでのインターンシップなどを通して、実践力を養成します。

いずれも21世紀の世界の鍵となるテーマです。どの系列でも文理双方から問題を問いかけ、ここを「切り口」として知識と経験を広げ、主題を根源から理解します。20年度は、「生命と環境」「生活世界の安全保障」「色・音・香」の3つの系列がスタートしています。



## 専門力を生かした多様な進路を切り拓く

このような教育プログラムは、ひとつのキャンパスに人文科学、社会科学、自然科学の3つの系列の教員が集うお茶の水女子大学だからこそ、可能なのです。大学1~2年生の段階で「文理融合リベラルアーツ」によって学際的で実践的な力をつけることによって、専門力をいかした多様な進路が切り拓かれます。



# 国際化の推進

## 国際交流プログラム

本学が取り組んでいる国際交流推進のための様々な交流プログラムの中から二つをご紹介します。

まず最初は、韓国の協定校、同徳女子大学校との間で2004年から行われている日韓大学生国際交流セミナーです。毎年8月に、両校の学部生が参加して本学または同徳女子大学校で開催されています。

プログラムの内容は、日韓双方の学生による研究発表と討論、野外実習、文化史跡探訪、両大学教員による講演などで、相互の文化を紹介し、理解しあうことを主な目的としています。昨年は「グローバル時代における日韓の重要性」をテーマにセミナーが行われました。

韓国開催時には学生宅でのホームステイを通じ韓国の文化や人間関係を体験したり、日本語学校を訪問したりしています。日本開催時には本学の茶道、狂言、日本舞踊、箏曲などの日本文化系サークルとの交流を実施しています。セミナーは、互いの文化に触れ、語り、ともに過ごすことを通して、アジアにおける交流の重要性にめざめるきっかけとなっています。

次にご紹介するのは2006年から行われているヴァッサー大学夏期日本語・日本文化研修プログラムです。アメリカ東部にあるヴァッサー大学も本学の協定校です。本年度は6月1日から7月27日までの8週間、男子学生10名、女子学生8名の計18名を本学に迎えます。

プログラムでは、日本語の授業と会話レッスン、本学の授業(英会話、生活科学の授業及び多文化交流実習)への参加、フィールドトリップなどが行われます。ヴァッサー大学の学生の参加する授業ではお茶大生との意見交換が活発に行われます。

さらに、ヴァッサー大学の学生は、それぞれの興味に応じて、本学のサークル活動やグローバル教育センター主催の文化教室に参加します。茶道や書道教室、着付け教室などの日本文化に関連する活動は人気が高いようです。文化教室はお茶大生も参加できます。みなさんも日本の文化を通じた国際交流を体験してみませんか。



## 世界女子大学連盟学生会議(ワークショップ)に学生を派遣

6月10日(火)~13日(金)に、米国マサチューセッツ州のマウント・ホリヨーク大学で開催される世界女子大学連盟学生会議(ワークショップ)に、本学から2名の学生を派遣しました。

この会議は、世界女子大学連盟に加盟する欧米、アジア、アフリカなどの大学から、学長が推薦する学生(各大学2名)が集まり、女性のリーダーシップに関する4つのワークショップに参加します。そして、ワークショップで得た知識や力を活かして、今後、女性リーダーとしての活躍することが期待されるものです。

女性のリーダーシップに強い関心を持ち、英語でのコミュニケーションに意欲のある学生を学内で公募した結果、平原紀子さん(文教育学部言語文化学科グローバル文化学環3年)、立林瑞穂さん(生活科学部人間生活学科発達臨床心理学講座4年)が本学の代表として参加しました。